



日本一の大きさを誇る山之上の珪化木
(見えている部分の長さ17メートル40センチ)



山之上町金谷地区の山中に珪化木は眠っています



珪化木の幹の断面（直径1メートル28センチ）



左から各務博子、鹿野恵利子、福田隆浩、酒向優佑

僕らの町には、 日本一17メートルの化石が転がっている

文・写真／各務博子、酒向優佑^{ゆうすけ}、鹿野恵利子、福田隆浩（山之上小学校 6年）

理科の学習で、化石や地層について学びました。山之上にも大きな木の化石があるということとを先生から聞いたので、一度見てみたいと思ったのがきっかけでした。

金谷地区の道路から15分くらい山の中に入っていくと、大きな木が横たわっています。これが、およそ二千万年前の木の化石(珪化木)です。見えている部分の大きさは、長さ17・4メートル、直径1・2メートル。この大きさは、珪化木としては日本で最大だそうです。現在の植物で幹の直径と地面からの高さから、この珪化木の高さを推定すると、およそ40メートルになります。巨大な木です。

でも、こんなすごい化石なのに、きちんと整備をしていない今のままの姿で本当にいいのだろうかとか疑問に思いました。もし、この化石がいつも目に触れるところにあつたら、もっと身近に感じられ、日本一の化石のまちとして誰もが誇りに思うことができるのだと。

私たちと一緒に行っていただいた蜂屋小学校安藤校長先生はこんなことをおっしゃいました。「確かにそういう話はありましたよ。でも、僕は反対しました。化石は、この場所にあるからこそ値打ちがあると思ったので……」

確かに、その通りでした。人工的なものを加えていない今の状態だからこそ、昔、この地に起こったことを、この化石は私たちに教えてくれていると思うのです。化石は、今のままの姿でいることを本当は望んでいるのです。

化石の探検を通して、私たちは山之上の宝物に触れました。そして、山之上って本当にいいところだなあと思いました。